

産経新聞社 代表取締役社長

熊坂 隆光

受賞者の皆様、ならびにご家族の皆様、本日はおめでとうございます。

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、日本医師会と産経新聞社が共同で、地域に密着して人々の健康を支えている医師の方々の功績を称えとともに、広く国民の皆様にも地域医療の大切さを改めてご理解いただくことを目的に創設しました。

受賞された皆様は、地域社会の中でなくてはならない存在として多くの信頼を集め、地域住民の健康を支えられています。医療資源の乏しい閑散地で24時間献身的な医療活動により地域の健康・医療を支える先生。都市部の過疎地で「かかりつけ医」として幅広く高齢化する患者のニーズに対応され、地域医療に多大な貢献をしている先生。「医療機関」、「患者」、「地域」の良好な関係を実現させるため、立場の違う医療従事者をまとめて、患者さんにとって最善の方法を模索するための組織を実現している先生。女性医師で外科医という貴重な存在として、地域の乳がん検診を一手に引き受けるだけでなく、障害者、高齢者の方が不安なく生活出来るよう努力を続けている先生。離島における唯一の病院の院長としてリーダーシップを発揮し、同院のスタッフとのチーム医療を実現し、住民から厚い信頼を寄せられている先生など受賞者の先生方が実施されている医療の根幹を成す「地域医療の充実」こそ、高齢化が急速に進む日本にとって必要不可欠なものであると言えます。

わが国の成長戦略として、「医療分野」はよく取り上げられています。世界を圧倒する日本の医療技術、制度だけではなく、受賞者の方々のような、誰もが安心して暮らせる「かかりつけ医」がいて初めて世界に誇るべき「日本の医療」は成り立つものなのだと思います。

今回の第2回「日本医師会 赤ひげ大賞」の受賞者の皆様は、「現代の赤ひげ」と言うべき地域に根ざした活動に従事されており、献身的な日々の活動は、まさに「日本の力」です。

私ども産経新聞社は、報道機関として、日本の医療の充実、ひいては国民の健康増進の一助となるべく、これまで以上に邁進していく所存であります。

